

絵手紙教室で描く楽しみを伝え、紙芝居や花いっぱい地域振興にも活躍。

きよひろ てつ や
清廣 哲也さん 山口県 83歳



「絵画による生きがいの普及。」

若い頃、中学校の美術教師をしていた清廣哲也さんは、描画を誘うと「絵画は苦手だから」とか「不器用だから向いていない」「時間がない」などと、描いてもいないのに拒否することが多いことに奮起し、平成8年から絵画の指導を始めました。

公民館や生涯学習センターの、絵手紙教室や楽描き教室などで指導。現在、7会場で100名を超える参加者があり、毎月、手描きの案内状

を出しています。

また、放課後子ども教室でも、ちぎった紙を貼り合わせ、て絵を作る「ラージュ教室を開くなど、世代を超えて絵画の楽しさを伝えています。

「自然と歴史を生かした町づくり。」

清廣さんが会長を務める地域おこしグループ「豊田ほたる街道の会」は、豊田地域の自然と様々な文化・歴史遺産、さらに先人の遺勲顕彰を生かした町づくりを推進するとともに、豊田町を訪れた人々を温かくもてなし、満足と感動が得られるように努め、交流人口を二層増やす一助となることを目的として活動。

歴史街道をウォーキングする「梨の花ウォーク」による「への協力や、平成22年の山口国体を機に始めた「花街道プロジェクト」の実施や、道

の駅での「地域づくり、人づくりフォーラム」豊田の開催など活発な取組を行っています。

また、郷土史研究会の会長として故郷を研究し、豊田町に伝わる民話や伝承を題材にした紙芝居の作成、上演も行っています。

これまで、今は廃路となった「長門鉄道物語」や、豊田に残る平家伝説「もう一つの先帝祭」などを制作し、現在6作目が進行中です。

「自らの経験や知識を社会に還元。」

清廣さんは「人はそれぞれ仕事などで得た知識や経験を持っていきます。それを出し合うことで地域は必ず変わるはず」との信念のもと、「私にできること」として、公民館長や文化協会長、ふるさとづくり協議会長などの役職をこなす清廣さん。



地域づくりの輪は、着実に広がっています。